

◇冬季国体・アジア競技大会について

問1. 神戸

冬季国体について質問します。

1月27日から31日までの5日間、名古屋市及び豊橋市、長久手市において、愛知県では9年ぶり2回目の冬季国体である、「夢!きらリンク愛知国体」が開催されました。

この大会は、新型コロナウイルス感染拡大を防止するため、無観客での開催となりました。緊急事態宣言の発令中の開催ということで、関係者の皆様は感染防止対策の徹底に、ご苦勞されたことと思います。また、参加予定の43都道府県のうち、11県が参加を取りやめたのは残念でしたが、32都道府県の参加を得て、事故もなく無事に全日程を終えることができたことを、愛知県実行委員会の副会長として感謝しております。加えて、出場された愛知県選手団の皆さんもめざましい活躍をされ、男女総合成績は3位、女子総合成績は4位となったことも、とてもうれしく思います。

今回の愛知国体の成功は、コロナ禍においてスポーツ大会を運営していくうえで、大変参考になる点が多かったと考えます。そこでお尋ねします。

コロナ禍において本県で冬季国体が開催できたことは前進であり、県民に希望を与えるものであったと考えられます。大会を成功に導くために、どのような対策を行ったのでしょうか、お伺いします。

答1. 舛田 崇 スポーツ振興課長

昨年11月に「新型コロナウイルス感染拡大防止ガイドライン」を策定し、選手、役員の大大会参加者に周知徹底を図り、皆様がガイドラインをきちんと守っていただけたことで、感染者も出ず、無事、大会を終えることができました。

このガイドラインでは、大会に参加する選手、役員など全ての関係者に対して、大会の前後2週間の検温や体調管理など健康チェックの義務付け、入場時の検温、そして会場内では選手と大会関係者の動線を分離することを徹底する、といった対策を行ったところです。

今回の大会では、無観客での開催や開始式や表彰式の式典の縮小、また、なごやめし等の地元グルメをふるまうのも中止いたしました。

更には、選手、役員の大大会参加者には、宿舎外の大人数での飲食を自粛していただくとともに、19時半以降に帰宿する選手には、夕食弁当を提供し、宿舎と競技会場以外の外出を極力しないようにしました。

一方で、大会を盛り上げるため、日本スポーツ協会の公式映像サイト「国体

チャンネル」において、式典及び競技の全日程のライブ配信とアーカイブ配信を行いました。大会初日(1月27日)に、用意したサーバーに対して膨大な数のアクセスがあり、一時的に視聴できない状態になりました。

国体チャンネルへのアクセス数は、大会期間中だけでも100万件以上で、今回の冬季国体に対する関心の高さが感じられたところです。

問2. 神戸

アジア競技大会における感染症対策について質問します。

冬季国体では、「新型コロナウイルス感染症拡大防止ガイドライン」を策定し、ガイドラインに沿った対策を徹底したことで、感染者を出すことなく、無事大会を終えることができたとのことでした。

また、1年延期となった東京オリンピック・パラリンピックでは、昨年9月から、安全・安心な大会開催に向けて、国、東京都、大会組織委員会、感染症専門家等が参加する「東京オリンピック・パラリンピック競技大会における新型コロナウイルス感染症対策調整会議」が6回開催され、アスリートや観客の対応策や聖火リレーの等の新型コロナウイルス感染症対策について、検討・調整がされました。そして、アスリート等の行動ルールや聖火リレー実施時の対策指針の策定、組織委員会感染症対策センター(仮称)の設置等の対策をすることが決められました。また、報道によれば、海外からの観戦客は受け入れない方向で検討に入っているとのことでした。

東京オリンピック・パラリンピックの取組は大変参考になると思われ、しっかり勉強して、アジア競技大会につなげていかなければいけないと思います。愛知・名古屋でアジア競技大会が開催される5年後は、新型コロナウイルス感染症を克服していると思われませんが、新たな感染症が流行することも想定しておくことが、新型コロナウイルス感染症からの教訓だと思います。

そこでお尋ねします。アジア競技大会では、新たな感染症に対しどのように対応していくのか、お伺いします。

答2. 山肥田 徳文 アジア競技大会推進課長

45の国と地域から多くの選手や関係者が参加するアジア競技大会では、新型コロナウイルス感染症のような新たな感染症の流行も想定して準備を進める必要があります。

本年開催される東京オリンピック・パラリンピックでは、2月3日に来日する選手やチーム役員、マスコミ等に向けての「公式プレイブック」を公表しました。このガイドブックは、入国前14日間の健康観察や日本での活動計画書の作成、検査で陽性になった場合の対応など、日本に入国する前から出国する

までの、新型コロナウイルス感染症の対応策を示したもので、大会の安全と成功に向けた取組を進めております。

こうした東京オリンピック・パラリンピックの取組を参考にして、アジア競技大会においても、新たな感染症に対応できる大会運営計画を作り、その計画に沿って選手や観戦客の皆様が安心して参加いただける大会となるようしっかり準備をしております。

問3. 神戸

冬季国体では、新型コロナウイルス感染症の影響により、開会式や表彰式、式典を始め、全ての競技の全日程がライブ配信されました。非常に多くの皆様が一斉にリアルタイムで Web でのライブ観戦を楽しまれ、サーバーがダウンしてしまうほどアクセスが集中したと伺っております。フィギアスケート競技は、活躍している選手が愛知県出身の方が多く、とても人気がある競技です。多くのアクセスが予想されたと思いますが、予想をはるかに超えるアクセス数だったようです。

近年、20代を始めとする若い世代を中心に、テレビの視聴時間が減少し、インターネットの利用時間が増加しています。特にプロスポーツでは、インターネットによるライブ配信が一般的になってきており、グローバルに視聴者を獲得しています。

スポーツだけでなく、芸能人によるコンサートや観劇等もこのコロナ禍で無観客でのライブ配信が行われるようになりました。こうした流れは今後も加速し、アジア競技大会が開催される2026年には、5Gが当たり前の世の中になり、より多くの方がスポーツだけでなく、様々なイベントをライブ配信で視聴する時代になっていると思われまます。そこでお尋ねいたします。

アジア競技大会に向けては、動画配信はもちろんARやVRなどのICT技術を駆使して、多くの方々に観戦を楽しんでしてもらおうことを考えていかなければならないと思いますが、アジア競技大会でのICT技術の活用についてどうしていかれるのか、お伺いします。

答3. 山肥田 徳文 アジア競技大会推進課長

インターネットによるイベントのライブ配信は近年、広がりを見せておりますが、特にコロナ禍におけるイベントの開催方法として活用されることで、幅広い世代への普及が進んでおります。

愛知県でアジア競技大会が開催される2026年には、これまで一般的であったテレビでの観戦だけでなく、インターネットを活用したスポーツの観戦がより一層、普及していくと考えられます。

また、今後の技術革新により、スマートフォンなどのモバイル端末から、これまでなかったような視点で、簡単に、より臨場感ある映像が楽しめたり、自宅でも会場との一体感を持つことができたりするような時代が来ることも期待されます。

さらに、来場者に対しても、ICT技術の活用により、大会の最新情報や最適な交通手段等をお伝えできるような仕組みを構築し、国内だけでなく、アジア各国からやってくる方々に対しても、快適な観戦環境を整えていく必要があります。

今後のICT技術の更なる発展の流れをしっかりと捉え、またこれから開催されるオリンピックやアジア競技大会等の国際スポーツ大会での活用事例を参考にしながら、愛知・名古屋大会でも積極的にICT技術の活用を検討していきたいと考えております。

<要望>

最後に要望させていただきます。

昨年2月頃からコロナ感染者数が増え、感染症拡大防止のため、多くのスポーツ大会が世界でも日本でも中止となりました。第92回選抜高等学校野球大会も中止となり、高校生の皆さんが涙を流した姿を今でも覚えています。

そして東京オリンピック・パラリンピックも延期となってしまいました。夏の高校野球選手権大会も中止となりましたが、選拔出場予定だった32校が甲子園において、各校1試合ずつの交流試合が開催されました。学校関係者・野球部員・保護者や家族は参加となりましたが、無観客での開催でした。それでも選手の皆さんが必死に闘う姿は、コロナ禍で心が沈んでいる日本中の人々に、大きな希望を与えたのではないのでしょうか。

その後、少しずつ様々なスポーツ大会やイベントが、観客数の制限・感染予防対策等を工夫し、なんとか開催しようという方向に向けて動き出しました。世界大会での日本の選手や国内競技での選手の皆さんの活躍は、コロナで疲弊している我々に元気を与えてくれます。大会を開催することは、優勝を目標に必死で練習してきた選手の皆さんの願いだけでなく、選手の必死な姿を応援する我々の願いでもあります。

まだコロナは収束に向かってはいませんが、ワクチン接種も始まり、非常事態宣言ももうすぐ解除となりそうです。アジア競技大会開催まであと5年しかありません。今回の新型コロナウイルス流行により学んだノウハウを、今後の大会開催に向けて活かしていくことを要望して質問を終わります。